

発 刊 に 寄 せ て

学校法人正強学園理事長 **市 川 良 哉**

本学は、去る昭和63年（1988）4月、宝来の旧キャンパスからこの山陵キャンパスへ全面移転しました。そのとき、創設されてすでに20年の歴史をもって、一段と発展しつつあった文学部に加えて、新たに社会学部が増設され、改めて教養部が設けられて、教育の一層の充実がはかられました。奈良大学情報処理センターはその一貫として、そのときを同じくして、開設されたのであります。

ご承知のように、本学は奈良盆地の北端の丘陵地帯にあり、関西学研都市の南端に接地しております。本部棟4階の展望ロビーから、近くには、東方に若草山が眺められ、南には、霞んで見える大和三山を望むことが出来ます。遠く西には、南方に向かって生駒・金剛の連山が視野に入ります。このような景勝の地で、同時に、学術的な活動するには電車で京都から30分、大阪から40分という交通至便のところにあることを駆使して、教育・研究活動が展開されています。

教育と研究は大学が担っている大きな使命であります。その教育は学生諸君を中心にして展開されるものでなければなりません。キャンパスに足を踏み入れると、学生諸君は知的探究心が誘発される。学内には、それが触発される整った施設・設備があり、それをリードされるすぐれた研究者（教員）がいる。そして、その知的な探究心は徹底して充たされていく。それが学生を中心として大学教育ではないか、とわたしは思うのであります。研究（教員の研究）はそうした教育にたえられるようなものでなければなりません。自戒を込めて自覚を新たにしたいと思うのであります。

情報処理センターを中心にして展開される教育・研究は今日、その重要性をますます高めてきております。情報化社会におけるマルチメディアやインターネットの情報技術の発展が教育や研究の在り方に大きな変革をもたらすに違いないと思われるからであります。コンピュータ教育は大学における手段として重要であるという時代ではなくなりました。教育のコンピュータ化が時代の要請になったともいわれるほどであります。

ここに、『奈良大学情報処理センター年報』の記念号が企画され、本学の教育・研究に資されるのは、こうした時代に、大きな意義をもつと思うのであります。本誌発刊を心からお祝い申し上げます。